

令和 6 年度 秋桜高等学校 学校評価

I 中期的目標

1	生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。 （1）各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。 （2）目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。
2	基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。 （1）各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。 （2）基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。 （3）特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。 （4）学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気重視する。 （5）校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。 （6）生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。 （7）いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。
3	教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。 （1）生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。 （2）職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。 （3）教職員間の情報交流がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和 7 年 4 月実施分〕	学校評価委員会からの意見
○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。 ○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。 ○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。 【分析】 ・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。 ・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。 ・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。 ・前年度と比較して大きく変わった取り組みとして、スキー・スノーボード研修が挙げられる。コロナ禍で中断し、前年度に再開の予定であったが参加希望者が少なく中止せざるを得なくなったものである。経費が高額になる行事であることが参加者が少なくなる理由の一つであることから、経費を抑えるため行き先を鳥取県氷ノ山に変更することとなった。教職員での議論を重ね、この宿泊行事が生徒同士、生徒と教員間の信頼関係を強くし、その後の学校生活における安心感を大いに高めるものであることを確認し、実施できる最低人数を検討した。結果、当日の参加者は 25 名と少数ではあったが、グレンデでの励ましあいや病休者への気遣いなど、互いに思いあう気持ちがあふれる充実した 3 日間を過ごすことができた。	学校評価委員会実施日：令和 7 年 6 月 20 日（構成委員 6 名） 1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（ 6 ）人・適切でない（ 0 ）人・わからない（ 0 ）人 2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（ 6 ）人・適切でない（ 0 ）人・わからない（ 0 ）人 3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（ 6 ）人・適切でない（ 0 ）人・わからない（ 0 ）人 4 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか 適切である（ 6 ）人・適切でない（ 0 ）人・わからない（ 0 ）人 【意見】 ・アンケート結果は概ねどの項目についても評価が上がっており、教職員間の定期的・臨時的な会議及び日常的な意見交換によって常に目標を理解していること、目標に基づいて授業や行事、懇談等における生徒や保護者との交流を丁寧に行っていることの成果であると考えられる。 ・保護者に対するアンケート項目の中で、一番肯定的な回答の数値が高かった「懇談や進路指導などが丁寧に行われている」については、教職員全員が生徒ならびに保護者も含めて、誰であっても「一人の人」として大切に思いながら対話の機会を持つことで、各人の事情を丁寧に聞き取り把握し、進むべき道とともに探ろうとしてきていることが、このような実感につながっているのではないかと意見が出た。電話や LINE、対面での日常的なやり取りはもちろんのこと、毎月の郵送物でのお知らせ、レポート課題に書かれているひとり一人への手紙が、安心感を生んでいると考えられる。また、年に二回各家庭 1 時間枠でしっかりと思いを聞く三者懇談などの時間も、本校ならではの取り組みとして浸透してきており、家庭と学校の信頼関係を深めるものとして、受け入れられているのではないかと考えられる。 ・日常的な生徒の清掃活動がない本校において、生徒に対する校内美化の意識付けは課題の一つである。一方で、年に二回実施している大掃除では、行事の出席を目的としての参加よりも、清掃活動をしたいという思いで主体的に参加する生徒が増えている実感がある。自分たちが使う学校が清潔であってほしいという意識が、生徒の中に高まっているように感じられる。アンケート項目「清掃が行き届いている」の肯定的回答も、令和 4 年：85.5%→令和 5 年：87.6%→令和 6 年 88.2%と年々上がってきている。

2 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
Ⅰ 生徒一人ひとりとしてしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。 (2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。	・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。	(1) ・自己評価（教職員）① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価（教職員）④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・自己評価(教職員)⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が94.7%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が93.0%（前年度実績89.5%）。 ・学校評価（生徒）③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が89.5%（前年度実績88.2%）。 ・学校評価（生徒）④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が93.0%（前年度実績90.8%）。 ・学校評価（保護者）② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が87.7%（前年度実績83.7%）。 ・学校評価（保護者）③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が85.8%（前年度実績85.0%）。 (2) ・自己評価（教職員）③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。 ・学校評価（生徒）② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が93.0%（前年度実績90.1%）。 ・学校評価（保護者）① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が97.4%（前年度実績94.0%）。	前年度のアンケート結果と比較して、どの項目についても肯定的評価が上がっており、学校運営、教育活動に対し理解を得ていると評価する。 学校評価（生徒）① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が3.5%増加していることについて、令和5年度に1年生の入学者数が約3割増加したことにより、年度末に多くの生徒が一つの教室に集まる状況が生じた。それを踏まえ、令和6年度は後期の授業における教室の展開数を増やしたことにより、比較的ゆったりと授業を受けることが可能になったからだと分析できる。 学校評価（生徒）③ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が2.2%増加、学校評価（生徒）②「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が2.9%増加していることについて、日常的にレポートに取り組む生徒の意欲が上がってきている一方で、令和5年度は実技体育など複数の教員が担当する授業の際、出席せず、自主的にレポートをする生徒の支援に当たる教員の数が不十分になる状況が生じていた。その反省を踏まえ、実技体育の授業時には、教室に残って生徒のレポート支援にあたる教員を臨機応変に決めたことにより、学習に取り組みやすい環境を整えることができたためと考えられる。そのことが学校評価（保護者）①③の肯定的評価を増加させることにもつながっていると考えられる。

2 基本的生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。	(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。 (2) 基本的生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。 (3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。 (4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。 (5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。 (6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。 (7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。	・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。 ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。 ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。 ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のＨＰ掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。	(1) ・自己評価（教職員）⑥ 「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。 ・学校評価（生徒）⑤ 「特別活動（学校行事）は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が84.7％（前年度実績84.6％）。 ・学校評価（保護者）④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が94.9％（前年度実績91.0％）。 (2) ・自己評価（教職員）⑦ 「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が94.7％（前年度実績100％）。 (3) ・自己評価（教職員）⑧ 「生徒の基本的生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が94.7％（前年度実績100％）。 (4) ・自己評価（教職員）⑨ 「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が89.4％（前年度実績95.0％）。 (5) ・自己評価（教職員）⑩ 「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が94.7％（前年度実績100％）。 ・学校評価（生徒）⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるように取り組んでいる」の肯定的評価が93.7％（前年度実績90.1％）。 ・学校評価（生徒）⑦ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が88.2％（前年度実績87.6％）。 ・学校評価（保護者）⑤ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が96.1％（前年度実績95.2％）。 ・学校評価（保護者）⑥ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が87.1％（前年度実績84.9％）。 (6) ・自己評価（教職員）⑪ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が94.7％（前年度実績100％）。 ・学校評価（生徒）⑧ 「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が81.2％（前年度実績82.1％）。 ・学校評価（保護者）⑦ 「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が98.8％（前年度実績94.0％）。 (7) ・自己評価（教職員）⑫ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。 ・学校評価（生徒）⑨ 「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が94.4％（前年度実績94.4％）。 ・学校評価（保護者）⑧ 「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が96.8％（前年度実績96.4％）。	学校評価（生徒）⑤「特別活動（学校行事）は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価は横ばいだが、令和4年度からの7.2％という大幅増が維持されている。それは、コロナ禍も過ぎ各種行事を従来通り実施できるようになり、生徒一人ひとりが学校行事を自由に選んで参加し、楽しむことができている状況が維持されていると考えられる。特に「スノーボード研修」については、令和5年度に参加費を値上げして4年ぶりの実施に踏み切ったが、参加希望者が十分集まらず、中止を余儀なくされた。この反省を踏まえ、令和6年度は行き先を石川県から鳥取県に変更し、経費を可能な限り抑えて計画し、何とか実施することができた。この時の参加者は、3年生が多く卒業しているため、今回のアンケート結果に大きく影響しているわけではないが、スノーボード研修という宿泊行事が再開されたという実績は、在校生や保護者に肯定的に受け止められているものと考えられる。 学校評価（保護者）④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が3.9％増加していることについて、宿泊行事を申し込む前に実施している事前説明会、参加を決めた生徒が集まる準備活動日や参加者説明会など、時間を重ねた上で臨む宿泊行事のあり方や、日帰りのハイキングであっても参加するにあたっての思いの確認を行ったうえで実施するといった丁寧な行事づくりが、一定伝わっているものと考えられる。 学校評価（生徒）⑧「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が0.9％減少していることについて、アンケートの時期が4月で進路決定をして卒業した生徒の意見が反映されていないということ、進路について考え始める時期が前倒しになっている近年において、特に2年生が年度末試験後から新年度が始まるまでの間に、不安を抱えて過ごしていることの表れてはいないかと考えられる。春休み期間中も生徒とのやり取りの中で、適切な情報を提供できるように努めるものとする。
---	--	--	---	--

3 教職員間の情報交換がしっかりとできるように工夫し、生徒一人ひとりを大切にした教育に全教職員で取り組む。	(1) 生徒一人ひとりを大切にした教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。 (2) 職員会議等の機会のみ ならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。 (3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。	・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。 ・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。	(1) ・自己評価（教職員）⑬ 「生徒とのコミュニケーションを大切にした指導を行っている」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。 ・学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にした指導をおこなっている」の肯定的評価が93.7％（前年度実績91.3％）。 ・学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が91.6％（前年度実績92.6％）。 ・学校評価（生徒）⑫ 「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が92.3％（前年度実績92.6％）。 ・学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にした指導をおこなっている」の肯定的評価が97.5％（前年度実績94.6％）。 ・学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が97.5％（前年度実績95.7％）。 ・学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気がいよい」の肯定的評価が94.2％（前年度実績89.8％）。 ・学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が97.5％（前年度実績97.6％）。 (2) ・自己評価（教職員）⑭ 「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。 ・自己評価（教職員）⑮ 「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。 ・自己評価（教職員）⑯ 「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が89.5％（前年度実績100％）。 (3) ・自己評価（教職員）⑰ 「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100％（前年度実績100％）。	学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にした指導をおこなっている」の肯定的評価が2.4％増加している。一方で⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」、⑫「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価はわずかに減少している。生徒が登校してきた際の声かけや日常的な連絡などのやり取り、月に一度の郵送物に入れる個別の手紙、提出されたレポート課題へのコメントなど生徒に対する関わりがひとり一人に届いていることの表れであると考えられる。しかし、生徒数が増えていること、また年度当初に教員が退職し欠員したままの一年だったことなども重なり、いつでも話ができ相談を聞いてもらえるといった余裕が持ちづらい状況が生まれていたと考えられる。 一方で学校評価（保護者）⑨「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にした指導をおこなっている」⑩「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価はいずれも増加していることから、本校教職員が日常的に生徒とのコミュニケーションを大切にした指導を行っていることは保護者にも十分伝わっており、安心を感じていただいていることがうかがえる。 学校評価⑪（保護者）「校風・雰囲気がよい」についての肯定的評価が令和5年度は大きく減少していたが、令和6年度は大きく増加している。多種多様な生徒がその子なりの過ごし方で学校生活を送っている様子を見て、表面的に評価するのではなく、生徒一人ひとりを大切にする本校の教育理念を理解したうえで、評価して下さっているものと考えられる。
--	--	--	---	--